

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 30 日現在

機関番号：16401
 研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21730166
 研究課題名（和文） ピグーの倫理思想と厚生経済学

研究課題名（英文） Pigou's ethical thought and welfare economics

研究代表者
 山崎 聡 (YAMAZAKI SATOSHI)
 高知大学・教育研究部人文社会科学系・准教授
 研究者番号：80323905

研究成果の概要（和文）：ピグーは、厚生経済学の創始者であり、大家であるが、その体系的な研究は国内外においても驚くほど少ない。特に道德哲学の側面に関する研究の遅れは顕著であった。そこで、私は、初期に書かれたピグーの倫理的文献に当たって、彼が元々抱いていた道德哲学を再検討した。その結果、彼の哲学は、多元的な善・厚生を追求する（ムアと同様の）理想的功利主義であることが分かった。この所見は、経済学的文献だけを基にピグーをベンサム型の快樂主義的功利主義と見なす従来の研究に対して大きく修正を迫るものとなった。

研究成果の概要（英文）：Although Pigou is the founder of welfare economics and a venerable authority of the discipline, there have been few comprehensive studies on his welfare economic thought. Specifically, the sluggishness of studies on the aspect of his moral philosophy is grave. Therefore, I tried to re-construct his moral philosophy that he was originally holding through the examination of several documents written in the early stage of his academic life. In consequence, it has been demonstrated that Pigou's ethical thought on which his welfare economics lies is Ideal Utilitarianism which pursues multiple ends or welfare as intrinsic good. In this point, Pigou is similar to G.E. Moore. This result contributes to correcting considerably the typical understanding in which Pigou is considered as Benthamite hedonistic utilitarian referring only to economic documents.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2000,000	600,000	2600,000

研究分野：経済思想

科研費の分科・細目：経済学・経済学説 経済思想

キーワード：ピグー 厚生経済学 功利主義 福祉 正義 欲求(選好)充足 必要充足 ケンブリッジ学派

1. 研究開始当初の背景

(1) 国内外の研究動向

我が国におけるピグー研究の重鎮である

千種義人氏がいうように、ピグーの名は著名であることに反して、その体系的な研究は国内外においても驚くほど少ない。なおかつ、これまではケインズ(研究)側から眺められ、

バイアスがかかった評価を受けるなど、ピグーの真意が正確に汲み取られてはこなかったといえる。ピグー研究の相対的な遅れはこのように著しく、これは大きな学問的損失である。しかしながら、このような状況に対し、近年、Aslanbeigui氏、Medema氏、本郷亮氏などによる（主に経済理論的側面における）ピグー再評価の研究も現れつつある。

(2) 着想に至った背景

ピグーは厚生経済学の創始者でありその大家であるが、彼の学究人生の出発点は、意外にも経済学ではなかった。元々は神学、倫理学、哲学方面がピグーの関心分野であり、彼は豊かな教養をそなえた第一級の知識人であった。哲学と倫理学を経て、経済学に至ったわけであるが、経済学は、「倫理学の侍女」であるとピグー自身がいうように、それ自体が目的ではなく、倫理的目的のための手段（道具）であった。彼の最終的な関心は、手段（経済学）ではなく、それによって実現される目的、つまり倫理的価値である。ところが、そのようなピグーの倫理思想を広汎な文献考証に基づいて本格的に研究したものはこれまでのところない。ピグー研究の相対的な遅れに対して、上記のように近年再評価の試みが幾つか行われているが、それらは主としてピグーの経済理論的な側面である。したがって、未だ十分に考察されていないピグーの哲学的・倫理的側面に光を当てることの意義を見出すに至ったという次第である。

2. 研究の目的

本研究は、アーサー・セシル・ピグーが構想した倫理・道徳哲学の内在的な研究およびその厚生経済学との関連の考察を目的としている。ピグーの倫理学は、究極的な目的に関わり、かつ厚生経済学の背後にあってそのあり方を規定しているという意味で重要であるにもかかわらず、その実質的な内容を本格的に研究したものはこれまでのところ皆無とあって差し支えない。本研究は、この点を正面から扱い、ピグーにおいても確固とした倫理的知見の基盤があることを主張しようとするものである。また、そのことを通じて、当時の経済学の科学化の流れによって捨象されてしまったピグーの厚生・福祉思想を再構成し、彼の厚生経済学が本来持っていた思想的豊饒性を描き出してみたい。

3. 研究の方法

経済学史および経済思想研究の方法は、研究対象とする人物の理論や言説を単に紹介したり、列挙したりすることではない。例えば、塩野谷祐一氏は次のように述べている。「私は、理論や思想は与えられた社会的素材であるのだから、優れた学史研究の要件は、

何らかの視点から素材の系列について意識的に論理的あるいは歴史的再構成を行うことであると思う。そして成功の条件は、視点の卓抜性と再構成の独創性にある。そうでないものは、単に個々の学者の理論を並べ、その内容を平均的な知識のレベルで要約しているにすぎない。」（『哲学なき経済学史研究を超えて』『経済学史学会年報』2000年）したがって、ピグーの倫理思想の内在的な研究にとって肝要なこととは、「何らかの視点から素材の系列について意識的に論理的あるいは歴史的再構成を行うこと」となる。

本研究においては、「素材」とはピグーが著した諸文献であり、「何らかの視点」とは先述した「功利主義倫理学の再解釈」に対応する。つまり、ピグーが残した広汎な諸文献に当たり、功利主義原理の再解釈の観点を通じて、彼の道徳哲学を再構成することを意図している。というのも、比較的、システムティックに書かれた一部の文献（『倫理学論争における諸問題』（1907）、『有神論の問題』（1908））を別にすれば、ピグーによる規範的叙述の多くが断片的であるためである。しかしながら、彼の経済学や哲学の文献などにおいて散見される規範的要素を拾い上げ、一定の観点（功利主義の再解釈）から道徳原理の体系を再構築することは決して不可能なことではないと思われる。各所において、様々な規範的主張がピグーによって行われているが、それらの根拠を説明し、合理的に統合する道徳原理の体系を彼の考え（内面的要求）に副う形で構成していくことが本研究での基本的な研究方法となる。

4. 研究成果

(1) 最も基本的な問題として、ピグーの倫理学上の立場が明らかにされた。これまでのところ、ピグーはベンサム（またはジジウィック）の系譜にある伝統的な快樂主義的功利主義者であると見なされていた。実は、この見解は、ピグーの著『富と厚生』や『厚生経済学』のみに基づいた見方であって、彼の著作全体を踏まえたものではなかった。例えば、これまで経済学者たちからは殆ど参照されなかった文献「倫理学論争における諸問題」（1907）や『有神論の問題』（1908）を読めば、上記のような通説が当てはまらないことは容易に分かる。ピグーが、快樂主義を明らかに否定しており、学説的には、ジジウィックよりも相対的に理想的功利主義者ムアやラッシュダルに近い立場にあることが明らかにされた。ジジウィック型の従来の功利主義は、同質的な快樂のみを内在的善とする立場であるが、ピグーの規範倫理学は、快樂のみならず、倫理的人格や徳性（卓越性・品性の陶冶）なども含めた多元的な要素から成る複合体を内在的善と見なす立場であること

が示された。そして、この善はそのままピグーにおける厚生(福祉)を意味することから、彼の厚生経済学が本来持っていた思想的豊饒性を解き明かすことにも繋がり得ることとなった。一部を挙げれば次のとおりである。「倫理的人格(ethical personalities)、快楽(pleasure)、善意思(good will)、徳(virtue)、愛情(love)、率直(open-hearted)、誠実(sincere)、非利己性(unselfish)」など。その結果、快楽や経済的厚生(満足・効用)などは、ピグーの厚生(福祉)のほんの一部分に過ぎないことが明瞭にされた。多元的な善を追求する理想的功利主義であるという視点を確立することによって、経済的厚生以外の要素(倫理的人格や卓越性といった非経済的厚生)の積極的な解明と経済理論との関係を再検証するというピグーに関する新しい研究側面が開かれたのである。

(2) 国内外の先行研究(J. Riley氏(Liberal Utilitarianism 1988年)、P. Kelly氏(Utilitarianism and Distributive Justice 1990年)、平尾透氏(『功利性原理』1992年)、音無通宏氏(『功利主義と社会改革の諸思想』2007年))では主にベンサムやミルを対象として検討されている功利主義の重層的構造(抽象的基本原理と実践規準)という考え方(功利主義の再解釈)がピグーにも当てはまること示された。その解釈によれば、功利主義原理とは、普遍的であるが抽象的な基本原理(最大幸福・厚生)からだけではなく、それを応用した様々な二次原理(実践規準)とから構成される二元的・重層的な構造を持つ道徳原理である。その考え方を援用して、ピグーの構想には、欲求充足(経済的厚生)の規準だけでなく、必要充足の規準も存在していることが明らかにされた。つまり、ピグーの功利主義は、最大厚生という抽象的な基本原理とその実践的応用の二次原理(欲求充足および必要充足原理)とから成る重層的な構造を持っている、という新たな解釈が示されたのである。

(3) さらに、上記の議論を援用して、ピグーの「ナショナル・ミニマム論」が(これまでの解釈のような)欲求充足(経済的厚生)ではなく、必要充足の原理から説かれていることを突き止めた。これまでの理解によれば、ピグーの功利主義ないし厚生経済学が、死活的に重要なミニマム(現代のセーフティ・ネットの類)の根拠づけに当たって、主観的な欲求充足に依拠していることから、「主観主義的な誤謬」を犯していると批判されることが多々あった。しかしながら、本研究において、ピグー自身が主観的満足と客観的必要との峻別を行っていた事実を指摘し、彼の唱道するミニマムが客観的必要を根拠としてい

たという全く新しいピグー理解を提示した。そのことにより、従来の典型的なピグー批判が必ずしも妥当ではないことが分かった。なおかつ、そのナショナル・ミニマムは、ピグーにおいて、権利の理論に該当するという解釈も打ち出されている。本研究の成果は、功利主義における権利の議論のケーススタディとしての意義も含んでいるといえる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 山崎聡 Pigou's Ethics and Welfare: a Non-Hedonistic Utilitarianism with the Desire and Need Principles. 第11回国際功利主義学会 ISUS, 2011年6月23-25日、イタリア(査読付きプロシーディング、pp. 1-26)。
<http://www.isus.ec.unipi.it/images/stories/Yamazaki-Pigou.pdf>

[学会発表] (計5件)

- ① 山崎聡 "Need and Distribution in Pigou's Economic Thinking" International Workshop Cambridge Approach to Economics: History and Legacy. 2012年3月21-22日。イタリア(フィレンツェ)
- ② 山崎聡 「厚生経済学の原型と展開——A.C. ピグー以降の正史と最近の研究」招待講演 鹿児島国際大学経済学部、2011年10月18日。鹿児島国際大学
- ③ 山崎聡 合評会『ピグーの倫理思想と厚生経済学—福祉・正義・優生学—』(昭和堂、2011年)。経済学史学会関東部会、2011年5月21日。早稲田大学
- ④ 山崎聡 "Pigou's Ethics and Welfare" International Workshop Cambridge, LSE, and the Foundations of the Welfare State: New Liberalism to Neo-liberalism. 2010年3月14日。一橋大学
- ⑤ 山崎聡 「厚生経済学の原型-A.C. ピグーを中心に」第23回『アカデミックコアタイム』高知大学教育学部研究推進委員会主催。2010年2月17日。高知大学

[図書] (計3件)

- ① 山崎聡 『ピグーの倫理思想と厚生経済学—福祉・正義・優生学—』昭和堂、250頁、2011年。
- ② 山崎聡 「シジウィック・ムーア・ピグー：功利主義・利己主義・正義の観点から」音無通宏編『功利主義と政策思想の展開』中央大学経済研究所研究叢書51巻、中央大学出版部、pp. 83-107、2011年。
- ③ 山崎聡 「シジウィック——アートとしての

経済学」小峯敦編『福祉の経済思想家たち』
【増補改訂版】ナカニシヤ出版、pp. 73-83、
2010年。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山崎 聡 (YAMAZAKI SATOSHI)

高知大学・教育研究部人文社会科学系・准
教授

研究者番号：80323905